



BOUNQUET

ブーケ

特集

「子育て」を考える

働く女性の子育て環境と

子育て支援について



子育てリーダーCHUO託児支援（ほっと一息「私の時間」）の様様（6、7ページ）

contents

特集「子育て」を考える	2
働く女性の子育て環境と子育て支援について	
輝くひとにインタビュー 子育てリーダーCHUO	6
INFORMATION ほっと一息「私の時間」ほか	7
TOPICS 水曜イブニングトーク	8

No. 61
2010.3

「子育て」を考える

～働く女性の子育て環境と 子育て支援について～



子育てを取り巻く環境の整備が急がれています。
男女共同参画社会の実現という視点から、改めて「子育て」に
ついて考えてみませんか。

区に望む子育て支援策（複数回答）

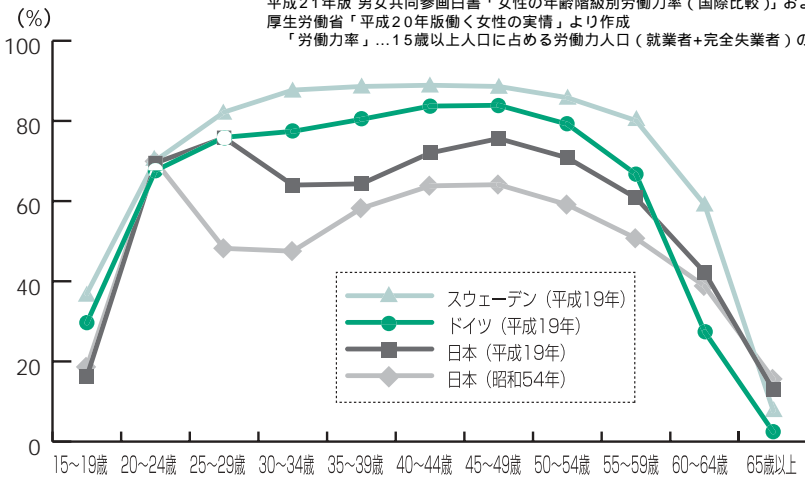
平成21年版 中央区政世論調査「区に望む子育て支援策（複数回答）」より作成

上位4項目を掲載

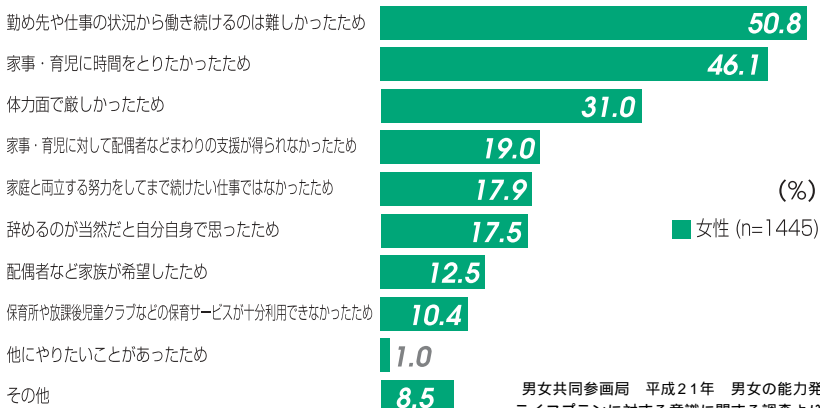


女性の年齢階級別労働力率

平成21年版 男女共同参画白書「女性の年齢階級別労働力率（国際比較）」および厚生労働省「平成20年版働く女性の実情」より作成
「労働力率」…15歳以上人口に占める労働力人口（就業者+完全失業者）の割合



妊娠・出産・子育てをきっかけに勤め先を辞めた理由（一般）



男女共同参画局 平成21年 男女の能力発揮とライフプランに対する意識に関する調査より作成

M字カーブ 働く女性の实情にみる

男女共同参画社会とは性別により活動範囲や行動様式が制限されない社会のこと。しかし「妊娠・出産・育児」に関する限り、女性の方が生活の変化を余儀なくされているのが現実です。
女性の年齢階級別労働力率（15歳以上人口に占める労働力人口の

割合）をグラフに表すと、25～29歳と45～49歳が左右のピークとなり、30歳代を底とするM字カーブを描きます。これは妊娠・出産・育児をきっかけに仕事を辞めて家事・育児に専念し、子育てが終了した時点で再就職する傾向があるためです。
近年では子育て期の女性の労働力率が上がってきていますが、仕事と子育てを両立出来る環境が整

ってきたという見方の一方で、子どもを持たずに働き続ける女性が増えている事や、ひとり親家庭の増加、非正規雇用者の増加など経済的理由による就労が増えているためという分析もあります。
海外事例を見ると欧米の主要国ではM字カーブはほとんど解消され、逆U字カーブを描いています。
OECD諸国のデータによれば1970年時点では、女性の労働力

率の高い国ほど出生率が低いという傾向でしたが、2000年時点では、女性の労働力率の高い国ほど出生率も高いという傾向に転じました。

また、スウェーデンやドイツなどのように労働力率でM字カーブを描いていない国では、家族手当等の経済支援だけでなく、保育サービスなどの充実や育児休業制度の整備など「育児・家庭」と「就労」の両立支援が進んでいる特徴があります。

中央区の現状と取組み

日本全体では少子高齢化が進んでいます。中央区では若い世代の転入者が増加傾向にあり、人口構成比は家族形成期の30歳代が最も多く乳幼児人口も増えています。

そこで区では、子育て世帯の増加に伴う保育需要に対応するため「中央区子育て支援対策本部」を昨年8月に設置し、保育所待機児童の解消をはじめ、総合的な子育て支援策を検討しています。

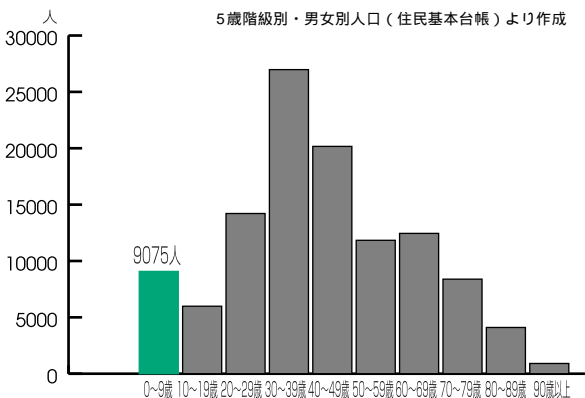
平成22年度は、11月に人形町保育園が新園舎へ移転により定員を拡大するのをはじめ、年明けには、

かちどき西保育園も勝どきビュータワー移転にあわせ定員を拡大し、堀留町保育園も開園予定で、仕事と子育てを両立できる環境の充実を図ります。

また、子ども家庭支援センター「きらら中央」では、子どもと子育て家庭に関するあらゆる相談に応じるほか、さまざまなサービスを提供しています。「一時預かり保育」は、9月から新たに日本橋区民センター一階においても実施予定です。

その他、企業にも両立支援を推進していくため、区内中小の事業所を対象に「中央区ワーク・ライ

中央区の人口・世帯数（平成22年2月1日現在）



フ・バランス推進企業認定事業」をはじめ、ワーク・ライフ・バランスに取り組みたい事業所には専門のアドバイザーを派遣する事業を実施します。

共に育む子育てを めざして

子育てはとかく夫婦や家庭の問

題ととられがちですが、ワーク・ライフ・バランス実現のためにも働きながら安心して子どもを生み育てることが出来る社会にむけて国や自治体、企業や職場の役割、男性の育児参加や地域ぐるみでの子育て支援が求められます。次ページからは、様々な立場からの子育て事情について紹介していきます。

中央区立子ども家庭支援センター「きらら中央」のご案内 東京都中央区勝どき1-4-1
TEL:03-3534-2103
FAX:03-3534-2224

きらら中央の育児支援サービスをご存知ですか
子どもと子育て家庭の総合相談 相談電話 03-3534-2255 ※9時~17時まで
お子さんに関して、悩みや不安がありましたら、気軽にスタッフまでお声がけください。電話相談やお子さん自身からのご相談も受け付けています。

専門相談：ご相談の内容に応じて、保健・心理・福祉などの専門相談員が個別に応じます。事前のご予約をお願いします。

子育て交流サロン「あかちゃん天国」

親子のふれあいと交流の場を提供するとともに、子育てに関する様々な情報提供や育児に必要な相談をお受けします。

利用対象者

3歳になった最初の3月31日までの間の乳幼児とその保護者、妊娠中の方

利用場所

きらら中央「子育て交流室」※9時~17時まで

トワイライトステイ

仕事等の理由により帰宅が夜間となる場合に、2歳から小学6年生までのお子さんをお預かりします。

※食事利用の場合
利用時間 17時~22時 利用料金 1回 2,000円 1食 400円

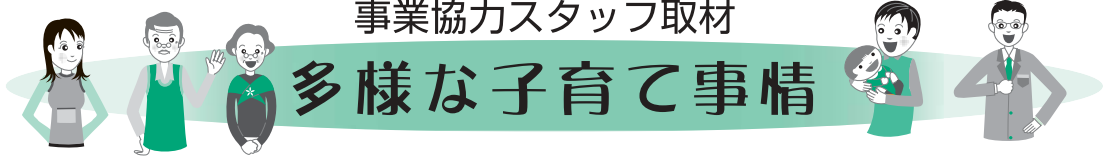
一時預かり保育

冠婚葬祭や育児疲れ等の場合に、0歳（生後57日）から未就学のお子さんをお預かりします。

利用時間 9時~17時 利用料金 1時間 800円

※一時間単位で利用可

育児支援サービスについての詳細は区ホームページへ。 <http://www.city.chuo.lg.jp>



事業協力スタッフ取材

多様な子育て事情

地域の子育て

おやこヨガ「sunfeer(サンフイール)」は、昨年12月に立ち上げた親子サークルで、子ども家庭支援センタ きらら中央「地域活動室」で活動しています。

きっかけは同センターの「あかちゃん天国」のメンバーが育児に悩むお母さんと身近に接するうちに「近くのママ友」の必要性を強く感じて、地域でのネットワークづくりの一助になればという願いから手探りではじめたそうです。内容はおやこヨガを通して親子のスキンシップや親同士の交流をもち、愛情溢れる楽しいコミュニケーション ションをはかります。ヨガをするうちに子どもの表情が次第に豊かになり、相まみえるお母さんの表情も快活に元気になっていきます。

回を重ねるごとに子どもたちの成長も著しく、感性を養う幼児教育にも通ずるとか。もちろんお母さんたちの心身のセルフケアにも最適です。

このような子育て中の仲間や、いざという時に頼りに出来る近所、子どもを預けられる支援施設の存在はお母さんにとって心強いもの。子どもの安全を守る意味でも、地域のやさしいまなざしが大切だと感じました。

事業協力スタッフ 村田進益

祖父母の子育て

2歳の孫を持つAさんの子育てを紹介します。「孫も娘も可愛いから出来ることをしてあげたい」と語るAさんですが、共働き夫婦の助っ人子育ては、かなりのハードスケジュール。

夕方5時半の保育園のお迎えから、8時に娘が帰宅するまで孫の面倒はAさんにゆだねられます。その間「掃除」「洗濯物の取り込み・たたみ」「アイロンがけ」「夕食の準備」「夕食の片づけ」を同時にこなすという専業主婦並の働き方です。夕食はAさんの夫も合流して孫と一緒にとるため、娘夫婦の分と合わせ5人分のまかないを用意します。

また月曜日の朝は保育園の持ち物が多いので、娘の代わりにAさんが代行、雨が降ればAさんの夫が車で送ります。孫の体調が悪いときは朝から駆けつけ夜8時まで一緒に過ごします。このように共働きを継続しながら育児するには、祖父母の協力が欠かせません。

娘の通勤時間の長さ、勤務先での育児支援の欠如が身にしみます。せめて「フレックス制度」が導入されることが当面の希望とのことでした。

事業協力スタッフ 橋谷信代

男性の子育て

「育児をしない男を父とは呼ばない」。これは、1999年の少子化対策キャンペーン(当時厚生省)のコピーです。その後、父は増えたのでしょうか? 当時17分だった父親の育児時間は、2006年では33分と、僅か16分の増加ですが意識の変化がみられます。

未就学児を多くもつ30歳代で育児に積極的に参加していると考える父親の割合は、この10年間で16.1%から32.5%に倍増しました。一方で育児をしたくてもできない現実もあります。2007年の内閣府の調査によると、生活の中で仕事・家事・プライベートの両立を望む男性は32%。しかし実際は50%以上の人が仕事優先を強いられ両立出来ていない男性は僅か8%に過ぎません。

このように、より長く育児に参加するには労働環境の改善が不可欠です。残業をしなくても仕事が終わる休暇を取っても周囲がフオロワーする体制を整えば、男性の育児時間はもっと増えるはず。

10年間で父親の育児参加意欲は確実に増加しました。次の10年で、より多くの父親が育児参加を実践できる社会になるよう、働くお父さんを応援しましょう。

事業協力スタッフ 脇坂 文栄

企業の子育て

産前・産後の育児休暇や勤務時間の短縮、育児休暇明けの短時間勤務など、出産・育児に関する事を就業規則に明記する企業が増えています。

また事業所内託児所を設置した企業では妊娠による退職を防ぎ、雇用の維持を図っています。社内に託児所があることで、親は子どもの急な発熱や体調の変化にも対応がし易く、安心して仕事を行うことができます。また時間外勤務になった場合も、管理栄養士が食事準備してくれるなど、就業内容に合わせた配慮もあります。

育児休暇については、女性が取得するものという風潮が根強く残りますが、男性が育児に関心が無い訳ではありません。少数ですが主に若い世代から育児休暇を取得する男性が現れています。

しかし一方で組織内に休職や短時間勤務の従業員が出れば、その仕事を再分配される従業員の負担が増えるのも事実です。

企業は、出産・育児当事者への規定整備だけではなく、同時に組織内の体制の見直し・仕事を負担する従業員への配慮を行う事が望まれます。このように周囲の理解や協力が、企業の子育てには不可欠です。

事業協力スタッフ 中原 玲子



外国の子育て事情



フィンランド

マグヌス・
ホグランドさん

フィンランド

は合計特殊出

生率が1.80(2004年)です。子育てサポートですが、働く女性には、出産前後に3カ月、男性は18日間の有給産休が認められています。産後は158日間の無給育児休暇(両親間でシエアール)の取得が可能です。社会保障手当てやサービス、国が運営する無料保育施設も整っていると思います。

父親の子育て参加ですが、男女が平等に働く環境が整っているため、基本的に共働きの家庭が多く男性が子育てに参加し女性をサポートすることは、ごく自然なことです。

日本と比較して子育てしやすい点は、国からの支援が多く環境が整備していること。例えば保育園から大学まで教育機関はすべて国立で無料です。各学校の教育レベルも統一されているので受験対策などの教育への投資がなく負担が軽くなります。

夫婦で子育てを分担し協力しあう精神は必要不可欠。国や民間のサポートも多いに活用し子育てはもちろん、自分達の日常も充実させたいですね!『センప్పア!』『頑張れ!』



フランス

ジェローム・
ルコックさん

以前はフランスでも合計

特殊出生率が低かったのですが、

今では2.02(2008年)と、欧州でトップとなりました。

保育園や託児施設がたくさんあり、働きながらも安心して子育てが出来るのが特徴です。ですから、出産後に復職する女性が多くなります。また子どもへの手当てが充実していて子育てにあまり費用がかかりません。現在、日本で大騒ぎされていることが、フランスではすでに当たり前になっています。

来日して驚いたことは、塾に通う子どもが多いことです。なぜ高い授業料を払って勉強するのか不思議に思いました。フランスでは、公立の学校は小学校から大学まで授業料がほとんどかかりません。また、医療費も子どもに限らず無料なので、日本で初めて病院にかかったときは驚きました。

父親の育児休業は、約2週間取得する人が多いです。しかし、家事を手伝ったりする人はまだまだ少ないのが現状です。最後に一言、「日本のお父さん、がんばって!」



韓国

ユンボヨンさん(右)
キムミンギンさん(左)

韓国は少子化傾向で合計

特殊出生率は1.19(2008年)です。韓国の子育ては教育費がかかります。生後9カ月から8ヶ月の家庭教師をつけ、3歳から英語やピアノの塾がスタート。小学生になると、放課後は塾に直し夜8時まで勉強、高学年では更に夜10時までの塾通いです。

このような競争社会で感じるストレスをうまく発散してあげることも親としての大切な役割です。話を丁寧に聞いたり、家族旅行に出掛けるなど、それぞれの家庭で工夫しています。

日韓を比較すると日本では手作りを美德とする傾向があり、働く母親の負担が多いと感じました。その点韓国では既成品を購入したり、時には外食を利用するなど合理的な一面があります。幼稚園も働く親に合わせ朝7時から夜7時までの開園が普通です。

日本の学校は「芋掘り」など、自然に触れる体験授業があるのが素晴らしいと思いました。日韓両国の良い所を吸収しつつ、協力しながら子育てをしていけたら良いと思います。



アメリカ

脇坂 文栄
事業協力スタッフ

フロリダ州
マイアミで長

男を出産、5歳の時に帰国しました。アメリカでは、育児中の母親を社会全体が応援してくれる雰囲気があります。

ベビーカーを押していると、後ろから走って来て、私と子供の為にドアを開けてくれました。レストランで子どもがぐずって泣くので、隣の席の方に、「うるさくてすみません」と謝った時、「子どもは泣くのがあたりまえでしょ」と笑顔で返され、ほっとしたこともあります。職場に子どもを同伴させるケースも有り、仕事のお母さんの隣で、静かに本を読んだり、絵を描いたりする子ども達を何人も見ました。

子どもを保育園に預けて大学に通っていた私は、「あなたは、子どもを育てながら大学に通って素晴らしいわね」と大勢の人に励まされました。

周囲の人に助けられて育児をした人が、時を経て子育てに奮闘する親達を助けていく。そんな暖かい環境に助けられ、夫以外に頼る人のいなくなった私ですが、心細い異国での育児を無事乗り切ることができました

地域でがんばっている子育て中の
パパ・ママを応援したい！

子育てリーダーCHUO



女性センターブーケ21で開催している育児中の方のための社会参加応援事業「ほっと一息私の時間」。その企画運営から託児で協力いただいている子育てリーダーCHUOの皆さんにお話を伺いました。

子育てリーダーCHUO（通称：子リC H U O）の経緯と活動を教えてください。

子リC H U Oは、中央区地域家庭教育推進協議会が開催した「子育てサポーターリーダー養成講座」の修了生や企画に携わった保育士が中心となって立ち上げた、中央区の子育てを支援するためのグループです。

主な活動内容は中央区地域家庭教育推進協議会の家庭教育学習会の企画及び託児、子育てをテーマにした学習会のサポートスタッフ、親子向けの手づくり工作や手遊び・子育て相談などを盛り込んだイベント「親子で来てね〜子育てリフレッシュ」の開催などです。

「親子で来てね〜子育てリフレッシュ」は、乳幼児から小学校低学年の親子ならどなたでも参加でき、今までブーケ21をはじめ築地、日本橋、月島の社会教育会館などで開催してきました。この時期の子どもは好奇心のかたまりで、少しもじつとはしていません。ふだん目が離せない子どもから暫し開放され、心身ともにリフレッシュしてもらいたいとスタートした企画です。

会場に工作、小麦粉粘土、折り紙などを準備した子ども

コーナーとカフェコーナーを設け、子ども達が目の届く場所で楽しく遊んでいる間に、パパやママがカフェで一息つけるのが魅力です。親同士でコミュニケーションをとったり、育児の不安や子どもの生活についての悩みなど、子育て経験のある子リC H U Oのメンバーが相談に乗ったりしています。

活動当初、ベビーシッターと間違えられることもありましたが、子育て中のパパ・ママの気持ちのケアに軸を置いた活動こそが、子どもの心と身体の健康な育ちにつながるかと考えています。

活動に参加したきっかけは何ですか。

子育ての情報交換や、経験の分かち合いになればと願って（青山さん）。
保母を定年退職後、それまでのキャリアを活かして地域に貢献出来たらと参加しました（嘉山さん）。

知人も親類もいない中央区に転入して、子育てに不安だった経験から、同じ境遇の方の役に立ちたいと思っています（田口さん）。

「子育てサポーターリーダー養成講座」のスタッフとして参加していましたが、養成講座終了後このまま解散するのはもったいないと続けています（武田さん）。

娘が不登校になった時、地域の力に助けられました。「何かの時の近所のおばさん」を目指しています（中村さん）。

「子育てサポーターリーダー養成講座」のスタッフでしたが、良い縁が続い

て今にいたっています（渡辺さん）。
子育て中のパパ・ママと接して感じられることはありますが。

マンションが次々に建ち、子育て世代の転入と共に区内の子どもの数がどんどん増えていきます。生活機能が整った住環境は外出の必要性が少なく、地域との交流も薄れがち。

核家族や少子化で親子が孤立したり、テレビや雑誌、インターネットなど山のような情報を前に、迷ったり不安を抱えたり、日々の忙しさに追われストレスを知らないうちに溜めてしまっているパパ・ママもいます。

そんな子育て真っ最中のパパ・ママに「私たちもそうだったのよ」、「がんばっているね」と声をかける地域の身近な存在でいたいと思っています。

子どもは十人十色、大人にとっての都合の良い子どもではなく、子育て中は子ども時間を第一に、焦らず、気楽に、子育てを楽しんでほしいですね。いつも応援していますよ！

読み聞かせの様子



連絡先：
中央区地域家庭教育推進協議会
事務局(文化・生涯学習課内)
TEL 03(3546)5526

報告

ほっと一息「私の時間」
キッチンから始まるエコロジー
楽しく実践！エコ・クッキング

1月20日(水) 午前10時から東京ガスの北浦裕子さんをリーダーに身近なところから実践可能な、環境に配慮したエコ・クッキングや食育についてのお話を伺いました。

参加した10名のママ達は、子どもを子育てリーダーCHUOの皆さんに預け、育児から暫し開放されたひとときを有意義に過ごしました。

(参加者の感想)
久しぶりに家事や育児と離れた時間を過ごしリフレッシュすることができました。
子どもがいるとじつくりものを考える時間がとれません。今日は子どもと離れゆっくり話を聞くことができました。



クイズや質問コーナーを交えたわかりやすく楽しい内容でした。



報告

事業協力スタッフ企画講演会
いくつになっても輝こう
浪速の漫才師のチャレンジ人生

2月20日(土) 午後2時からタレントで芸能プロダクション経営の辻イト子さんをお招きし、紆余曲折の半生について、笑いと涙を交えながら語っていただきました。

知的障害をもつ子どもの育児から社会と混じり合う大切さを、父親の介護から人間は最後まで諦めたらいけないという希望を確信したという辻さん。40代で一念発起したタレント業にデビューすると持ち前の明るさとバイタリテイで活躍し、現在にいたります。波瀾万丈な体験談と爽快かつ繊細な人柄に魅了された講演会で、「いくつになっても輝こう！」のメッセージに元気をもらいました。



身振り手振りを交えた明るくダイナミックな語りの世界に、時間を忘れて引き込まれました。



辻さん背面の看板は事業協力スタッフの手作りです。

お知らせ

女性センターホームページ
のご案内

女性センター「ブーケ21」では、男女共同参画に関する情報を皆さんに広く提供するため、昨年11月にホームページを開設しました。ここでは、女性センターの施設紹介や事業案内のほか、女性センターを中心に活動している女性団体



が活動紹介やイベント情報・仲間募集などの情報を掲載しています。
これらの情報は、メールマガジンの登録をすることで、ご登録のメールアドレスへ自動的に配信します。ご希望の方は、女性センター「ブーケ21」ホームページよりお申し込みください。

「ブーケ21」女性相談の相談枠拡大に伴い相談日時が4月から変わります。
「ブーケ21」女性相談

相談日時

- 第1・5水曜日、第4火曜日
10時～16時 ※正午から午後1時は休み
 - 第2火曜日、第3水曜日
15時30分～20時30分
- ※ 祝日及び年末年始(12月28日～1月4日)は除きます。

女性に対する暴力の相談をはじめ、女性が抱える様々な問題を解決していくための相談を専門相談員がお受けします。
費用無料。相談は事前予約制です。
※ 相談時の託児有(事前予約制)

相談専用電話

03-5543-0653

予約受付は9時から21時(年末年始等除く)

ホームページアドレス

http://bouquet21.genki365.net/

水曜イブニングトーク

女性センターブーケ21では、昨年8月から偶数月の第一水曜日の夜に「水曜イブニングトーク」(全4回)を開催。講演後にディスカッションを行う参加型イベントです。21年度は「女性とまちづくり」をテーマに活発な意見交換がなされ、中央区に對する熱い思いを感じる事ができました。ここで、今までゲストにお招きした方々をご紹介します。

第1回(平成21年8月5日開催)
「ベイエリアのまちづくり」
～都市開発と女性技術者たち～
(独)UR都市機構

小林由佳氏
田辺陽子氏

女性技術者の立場から晴海の再開発について携わった経験などお話しただきまいた。また、中央区の古い町並みから現在の町並みまで写真で紹介していただきました。



第2回(平成21年10月7日開催)
「女性と住まい・まちづくり」
(社)東京建築士会女性委員会委員長

多羅尾直子氏
女性ならではの視点からアイデアを出されている多羅尾さんに、自ら建築設計されたコーポラティブハウスや中学校の新校舎についてご紹介いただきました。周りの住宅との調和や景観に気を配り、誰もが住みよいまちづくりの重要性を教えてくださいました。



第3回(平成21年12月2日開催)
「水の都、中央区のまちづくり」
これから

陣内秀信氏
法政大学デザイン工学部建築学科教授

根岸博之氏
法政大学大学院工学部建築科修士課程
中央区の文化や水の都としての歴史など、国際的な視点から中央区の魅力を紹介していただきました。また、都市の魅力を伝えるために行っている子どもワークショップについてもお話しいただきました。



第4回(平成22年2月3日開催)
「まちづくりと女性の参画」
銀座街づくり会議

竹沢えり子氏
秋友一美氏
(株)晴海コーポレーション総務部長
中央区副区長

吉田不曇
銀座街づくり会議では銀座に相応しい景観づくりを、看板や照明等から審議しているそうです。また、日本初の都市型団地として再開発された晴海地区の開発の歴史や、街づくりのエピソードをお伺いしました。ゲストの方々の中央区での街づくりの情熱が伝わる活気のある会でした。



事業協力スタッフ 中原 玲子

平成22年度 水曜イブニングトーク(全4回)

平成22年度の水曜イブニングトークは、左記のとおり開催します。22年度のテーマは「中央区を愛して～中央区のまちと男女共同参画」です。ぜひご参加ください。

第一回
日時 4月7日(水)
18時30分から20時
「俳句・川柳でみる日本橋」
ゲスト 上林 武人 氏
会場 女性センター
(『月刊日本橋』発行人)

第二回以降は、6月2日(水)、8月4日(水)、10月6日(水)いずれも18時30分から20時まで女性センターにて開催します。

館長雑記

もうすぐ春! ですね♪

▲ようやく暖かくなってきました。日差しもキラキラと輝いてもうすぐそこまで春がきていることを告げています。この広報誌が発行されるころはきっとすっかり春になっていることでしょうね。▲ブーケ21の講座や講演会も、順調に終盤に入り、写真展や講演会、ひな祭りコンサートなど、にぎやかに展開しています。課題や評価はつぎの企画につながりさらに充実したものになるはず。▲「本格的に新しい年度が動き始めたな」ということを実感するのは、第9回ブーケ祭りに向けて、実行委員会がスタートしたことです。会長はじめ、役員も決まり実行委員全員で運営のための体制をつくりました。6月25日、26日のブーケ祭り当日までみんなで力を合わせて、すばらしいお祭りを開催したいものです。▲今年度好評だった「水曜イブニングトーク」は、4月7日(水)を第1回として、6月、8月、10月それぞれの第一水曜日に実施します。全体テーマは、「中央区を愛して～中央区のまちと男女共同参画」ということで、第1回目は『月刊日本橋』の発行人、上林武人氏をお招きします。タイトルは、「俳句・川柳でみる日本橋」。中央区のシンボルともいえる日本橋から始まるこのシリーズもお楽しみに、ぜひブーケ21へお運びください!
(松川淳子)